

東京大学東アジア藝文書院

活動報告書

2022

The Annual Report of
East Asian Academy for New Liberal Arts



The University of Tokyo



中島 隆博

(東アジア藝文書院院長)

「ともに花する空気——Human Co-floweringへ」

2022年度は、東アジア藝文書院（EAA）の第二期を始めることができました。振り返りますと、前半と後半で大きく様変わりしたように思われます。前半は、相変わらず新型コロナウイルスに翻弄され、第一期と同様にオンラインを中心とした活動に終始しました。ところが、後半になりますと、海外の状況が一変し、国際的な交流が徐々に復活し始めたのです。わたし自身、昨年11月には、マルクス・ガブリエルさんがアカデミック・ディレクターを務めているハンブルクのThe New Instituteという民間の研究所に滞在し、世界各地から集ったフェローの方々と対面で交流することができました。ようやくコロナ後の国際交流の視界が開けた思いがいたしました。

今年度、特筆すべきは、潮田総合学芸知イニシアティブを開始することができたことです。潮田洋一郎さんからのご寄付に支えられた、東アジアの「アーツ」（総合学芸知）に対する包括的な理解と新たなアプローチを探究するプロジェクトです。「藝文学研究会」を立ち上げ、ほぼ毎月のように対面とオンラインのハイブリッドで議論を深めることができました。

またその枠組みで、海外の気鋭の学者を招聘することも実現できました。東京カレッジと東アジア藝文書院との連携のもと、延世大学のキム・ハン教授を一年間招聘することができたのです。これを合図に、北京大学をはじめとする海外の研究者との交流という、わたしたちの本来の目的を着実に実現していきたいと思っております。

ダイキン工業様との連携もさらに深まり、11月30日に開催された「ダイキン東大産学協創フォーラム——「空気の価値化」が創生する未来の社会と技術」では、この間の成果が一般に公開され、「空気の価値化ビジョン」という小冊子が配布されました。その最後の二頁にわたって、「ともに花する空気——Human Co-floweringへ」という拙文を掲載していただきましたが、それは東アジア藝文書院の活動から考えたものをまとめたものです。今後は英語版、中国語版も出されると聞いております。

この活動報告書をご覧くださいますと、わたしたちが様々な活動を通して、Human Co-floweringを実現しようと願っている、そののぞみを読み取っていただけるのではないかと思います。今後とも東アジア藝文書院への温かいご支援とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



石井 剛

(東アジア藝文書院副院長)

EAA第二期のスタート

今年度は第二期のスタートの年となりました。研究・教育・社会連携を三つの柱に据えた「東アジアからの新しいリベラルアーツ」、これが第一期に整ったEAAの骨格です。おかげさまで、総合文化研究科・教養学部の運営諮問会議では、駒場における社会連携の典型事例のひとつとしてEAAが紹介されました。また、北京大学との交換留学が現地渡航という本来あるべき姿でようやく実現しました。恒例の学術フロンティア講義「30年後の世界へ」は、2021年度の講義が『私たちは世界の「悪」にどう立ち向かうか』（トランスビュー）として出版され、今年度の「「共生」を問う」も出版に向けて準備が進んでいます。学問がその真価を発揮するためにこそ、社会からの負託に応えることがわたしたちの使命です。どうぞ今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



張 政遠

(総合文化研究科 准教授)

書院教育の可能性を探る

東アジア藝文書院は東京大学の中の唯一の「書院」です。書院教育の目的は、学生たちと一緒に古今東西のクラシックスを読みながら、「30年後の世界」に向かって想像することにあります。しかし、教育の現場は講義棟やオンライン空間だけとは限りません。駒場キャンパス内では、禅堂の「三昧堂」や茶室「柏蔭舎」で授業を行ったこともあれば、キャンパスの外では、能面を制作する「北澤木彫刻所」や福島県富岡町の被災地など学生たちと一緒に「巡礼」したこともあります。また、書院を考えるワークショップでは、「ナレッジトランスファー」や「リカレント教育」を検討しています。コロナ禍で奪われた体験学習を取り戻すべく、書院教育のポテンシャルを探りたいと考えています。



田中 有紀

(東洋文化研究所 准教授)

人文学が社会に果たす役割

東アジア藝文書院の社会連携は、寄付者と私たちが、それぞれの知識や技術を共有しあい、相互に理解を深め、社会において大学がどのような役割を果たせるか、人文学が世界に対しどのように寄与できるかを常に考えながら進められています。たとえば今年度は、ダイキン工業株式会社を訪問し社員の皆さまと同じ本を読みながら、より良い「空気」について共に考えました。また同じくご支援を頂いている潮田洋一郎さんには、潮田総合学芸知イニシアティブ・キックオフイベントにご参加いただき、中島院長をはじめ、「情」についてメンバーとの対話を行いました。社会連携によって培われたものは、東アジア藝文書院における教育活動・研究活動にも還元され、日々新しい相乗効果が生まれています。



柳 幹康

(東洋文化研究所 准教授)

「藝文学」ユニットの創設

東アジア藝文書院では発足以降、四つのリサーチ・ユニット「世界哲学と東アジア」「世界文学と東アジア」「世界史と東アジア」「未来社会と環境・健康」を組み様々な研究を続けて参りましたが、2022年度はそこに新たに「藝文学」ユニットを加えることができました。これは潮田総合学芸知イニシアティブの研究を推進するもので、寄付者の潮田洋一郎さんを名誉フェローにお迎えして研究会を開き、人として自由に生きるための「総合学藝知」を探究しています。これまでダイキン工業様との連携で取り組んできた「空気の価値化」とともに、「総合学藝知」の構築を目指し皆が自由に研究しその成果を融合させていくことで、「ともに花する空気」を東アジア藝文書院から世界に満たしていきたいと願っています。

東アジア教養学

EAAが開講する教育プログラム「東アジア教養学」ではクラシックスの読解を基礎とした徹底的な議論と相互学習の場を、国際的かつ多言語的な環境の中で提供している。



駒場キャンパス内の三昧堂での授業風景 (2022/07/05)



演習で和辻哲郎著「面とベルソナ」を読了後、北澤木彫刻所で能面制作現場を見学 (2022/07/30)



被災地の現状を知るために福島への実地研修を行い、中間貯蔵施設・廃炉資料館・とみおかアーカイブ・ミュージアムを参観 (2023/01/28)

EAAユース

東アジア藝文書院において活動する学部後期課程生・大学院博士課程生からなる学生組織。EAAが開講する科目の授業に参加しつつ、授業外においても自発的な学術活動を展開しながら、EAAが目指す新しい学問の構築に積極的に関与している。



第4回修了式が行われ、EAAユース第2期生の熊木雄亮さん、森要さん、Qing Xinさんの3名に修了証が授与された。(2023/03/22)

学術フロンティア講義

2022 S-semester 学術フロンティア講義

30年後の世界へ
「共生」を問う

場所: 21KOMCEE East K011 曜限: 金曜 5限

1	4月8日 ガイダンス
2	4月15日 共生をめぐる小さな自伝的物語り 青山 和佳 (東洋文化研究所/東南アジア地域研究)
3	4月22日 いかにして共に生きるか—「食べること」と「リズム」について 星野 太 (総合文化研究科/美学/表象文化論)
4	5月6日 Living in Harmony with Nature: Is It Possible And How? 呂 植 (北京大学 生物保護学)
5	5月20日 Beyond the Organismic Metaphor, or Philosophy after Cybernetics ユク・ホイ (香港城市大学 技術哲学)
6	5月27日 共生とバイオポリティクス 中島 陸博 (東洋文化研究所/東アジア藝文書院 世界哲学/中国哲学)
7	5月30日 類を越える物と共に生きる世界: 中国思想から考える環境倫理 田中 有紀 (東洋文化研究所/東アジア藝文書院 中国哲学)
8	6月3日 「他者と共生する「私」とは誰か—レヴィナスの思想を手がかりに 藤岡 俊博 (総合文化研究科/フランス哲学/ヨーロッパ思想史)
9	6月10日 仏教から見た共生: 私ひとりでは幸せになれるのか? 柳 幹康 (東洋文化研究所/東アジア藝文書院 中国仏教思想史)
10	6月17日 先住民との共生 張 政遠 (総合文化研究科/東アジア藝文書院 日本哲学/現象学)
11	6月24日 文学研究と「ポストクリティーク」—批判は共生のための技術になり得ないのか? 村上 克尚 (総合文化研究科/日本戦後文学)
12	7月1日 共生を求めること・共生を撮ること—魯迅を再読する 王 歆 (総合文化研究科/東アジア藝文書院 比較文学/批評理論)
13	7月8日 よりよく生きるためのスペースを想像する 石井 剛 (総合文化研究科/東アジア藝文書院 中国哲学/中国思想史)

EAA | 東京大学東アジア藝文書院
EAST ASIAN ACADEMY FOR NEW LIBERAL ARTS, UTokyo

2022年度は「30年後の世界へ—「共生」を問う」と題し、文学・哲学・環境・宗教など様々な専門分野から、改めて「共生」について考えた。既存の概念と対話し、人間全体がよりよく生きるための「共生」概念を見つけ、新しい未来への希望を開くための講義を行った。

サマーインスティテュート

北京大学と東京大学との共同プログラムである Summer Institute では、Education and innovation を今年度のテーマとし、オンラインで開催。両校からの参加者がグループ分けされ、それぞれプレゼンテーションを準備し発表を行った。

藝文学研究会



潮田総合学芸知イニシアティブの創設にともない、2022年度にプロジェクトを推進するための藝文学研究会も立ち上げられた。私たちはどうすれば「共に人間になる」ことができるのか。新しいアイデアの創発を促す、誰もが安心して発言できるような“サロン”とも言うべき言論空間で毎回活発な議論が繰り広げられている。



キックオフイベント

EAA潮田総合学芸知イニシアティブ創設記念



東アジアの「アーツ」（総合学芸知）に対する包括的な理解と新たなアプローチを探求するEAA潮田総合学芸知イニシアティブ (UIA) が 2022 年度創設されたのを記念し、キックオフイベントが開催された。寄付者である潮田洋一郎氏の名誉フェロー就任式に続き、中島隆博院長とのダイアログも行われた。

おおくすセミナー&哲学カフェ



「民俗学 × 哲学」研究会では、徳島県三好郡東みよし町にある「おおくすハウス」にて、民俗学と哲学のコラボレーションをめざす様々なワークショップを関西学院大学の山泰幸氏とともに開催。「哲学カフェ」では「忘れること」「愛と幸福」「SDGs」等について、東みよし町の住人の方々をはじめ、世界各地から来訪した研究者とともに活発に議論し、地域社会と研究者を結ぶ試みを継続的に行っている。

Publications

EAA Forum 13 30年後の被災地

高橋哲哉 ほか 著

2023.3.10



EAA Forum 21 大学“書院”教育模式的経験と思考

石井剛 編

2023.3.10



EAA Forum 14 朱子学的過去と未来

田中有紀 編

2022.6.24



EAA NOZOMI Collection No.1 初期植民地台湾における「漢文」と統治

前野清太郎 著

2022.8.20



EAA Forum 15 中国現代文学研究的方法及其射程

王欽 編

2023.3.15



EAA NOZOMI Collection No.2 偶然性と実存

——九鬼、メルロ=ポンティ、メイヤスー

田村正資 著

2022.8.20



EAA Forum 16 「人間」を価値化する

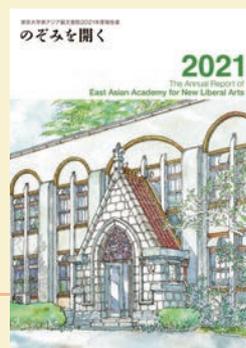
五神真 ほか 著

2023.3.10



東アジア藝文書院 2021年度活動報告書

2023.3.10



EAA Summer Institute 2022 Student Report

2022.12



東京大学東アジア藝文書院
EAST ASIAN ACADEMY FOR NEW LIBERAL ARTS, UTokyo

●Mail: info@ea.c.u-tokyo.ac.jp
●URL: <https://www.ea.c.u-tokyo.ac.jp>